



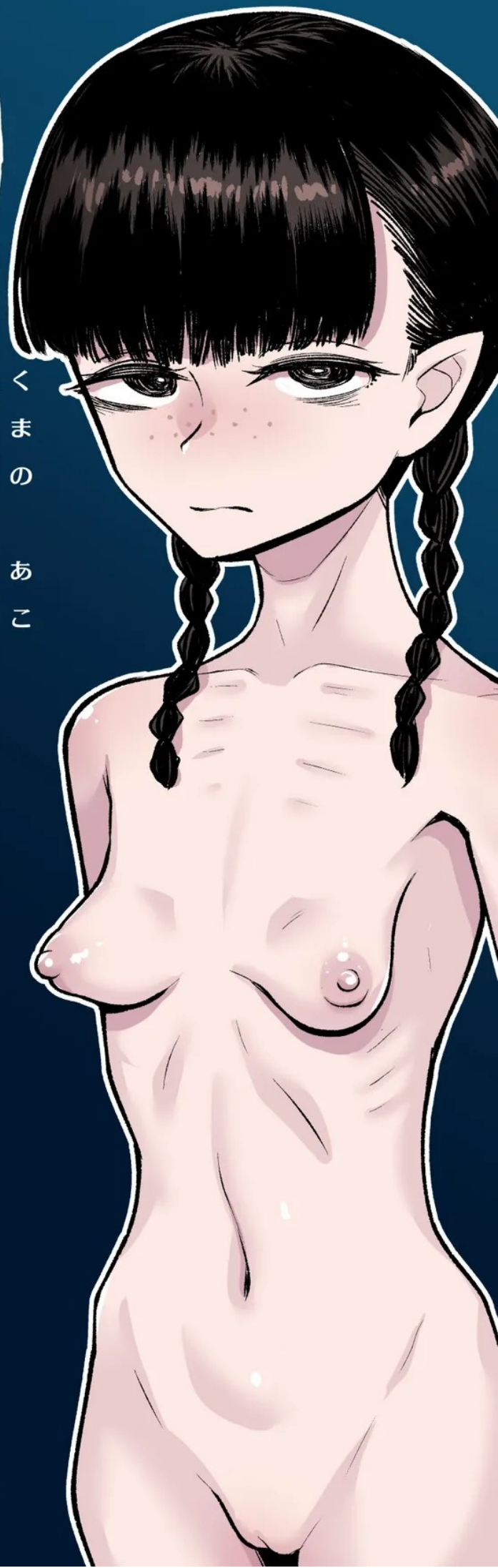
**彼女が  
僕を  
壊した**

初恋の亜子姉は  
僕の家族と  
セックスしてる



# 隈野 亜子

くまの あこ



古臭い髪型にそばかすと八重歯の、一見地味な少女。病的な色白とつかれた目が、男の支配欲を刺激する。

男は彼女を見れば否応なく押し倒して、自分のものにしたいくなる。それが実の父親でも、義理の家族であったとしても。

彼女もまた、自分を求めてくる男を拒絶しない。自分に狂っていく男を見るのは滑稽で、愛おしく、気分がいいからだ。

彼女の周りには不和が絶えない。しかし彼女がそれを望んだわけではない。あくまで男が勝手に狂っていくだけ。彼女はそう思っているし、事実そうなのだ。

倫理はないが、悪意もない。彼女はただ男の欲望をうつす鏡。

——そういうふうには、生きられない女。



亜子!!

亜子……っ

激しいよ  
お父さん

下に  
聞こえ  
ちゃうよ





お父さん  
強くしたら  
あざになるよ

お母さんに  
ばれちゃうよ

ズン



お前は  
俺の  
ものだ  
渡して  
たまるか

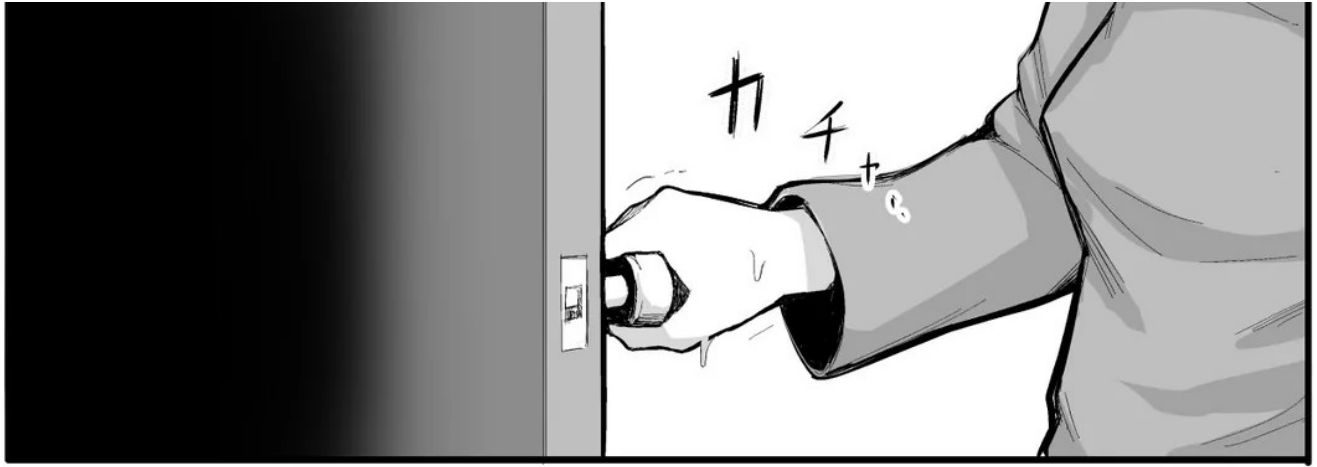
ギューッ



俺だけが……っ  
ずつとッ  
お前を……!!

ズン

ズン



あなた……  
……亜子!!

あなたたち  
やっぱり……!!

キ……

その日、母は  
朝から不機嫌で

父はそれを  
気にして  
気まずそうで

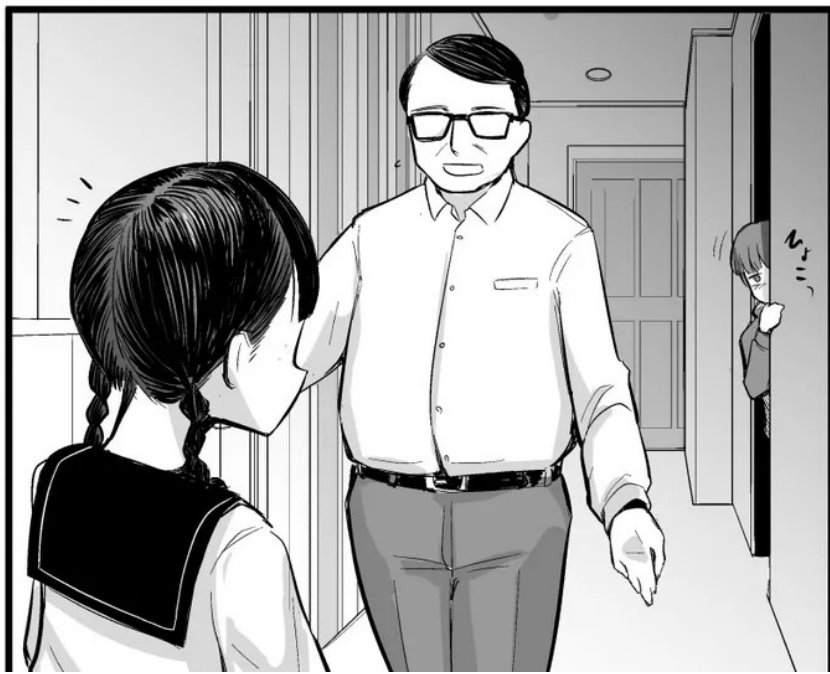
兄はいつもと  
変わらず  
物静かだった



僕はといえば  
どこかソワソワと  
落ち着かない気持ちで

新しく家族になる  
彼女を待っていた





亜子姉は  
父のいとこの  
子どもで  
僕の3つ上、  
兄の3つ下

先日彼女の  
両親が亡くなり  
ほかに行き場も  
なくて

うちで一緒に  
暮らすことにな  
ったのだと  
父は言った

兄は受験生で  
一人部屋を使って  
いたのだけど

自分の部屋を  
亜子姉に譲って  
ぼくと部屋を  
共有することになり

それで文句の  
ひとつも言わない  
ような人だった

……優斗

あの子  
やっぱり  
疲れた顔  
してたね

そ、そう  
かな……？

……父さんは  
言わなかった  
だろうけど

あの子の両親、  
普通の亡くなり方  
じゃなかったんだ

……つらい思い  
してるだろうからさ

僕は兄に  
あこがれていた

賢くて大人びて  
どこまでも  
やさしい兄に

お前なりに  
気遣って  
やりなよ

それは亜子姉が  
来て1週間ほど  
経った頃だった



私はまだ納得  
してないから



今からでも  
施設に入れ  
たらいいのよ

義之は受験生  
なのよ!!

この大事な時期に  
あの子と何か  
あったら  
どうするのよ!!

そ、そんなこと  
言っちゃって  
お前……

あなただって  
知ってるでしょ

なんであの子の  
親が心中する  
羽目になったか!



コラ..



じわ...



あ

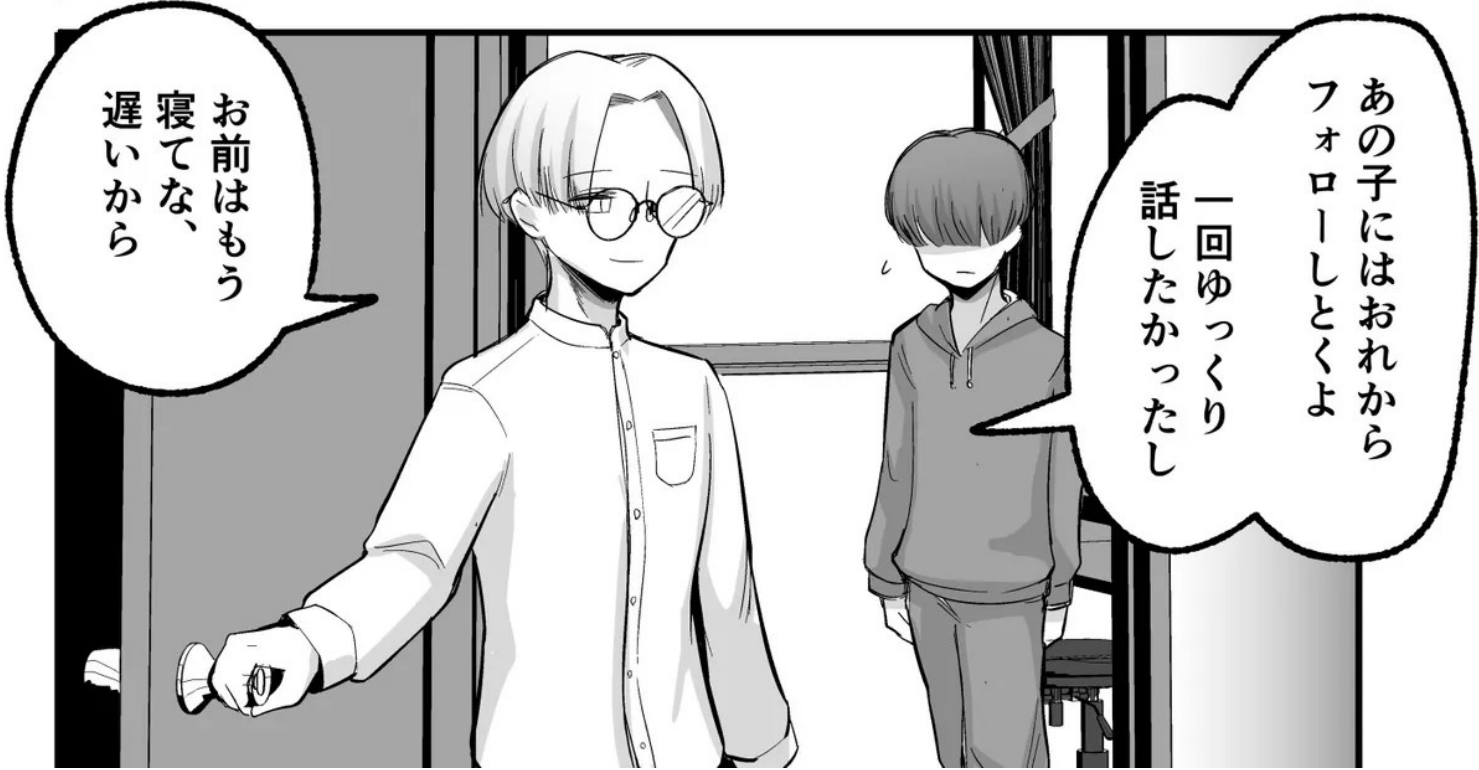
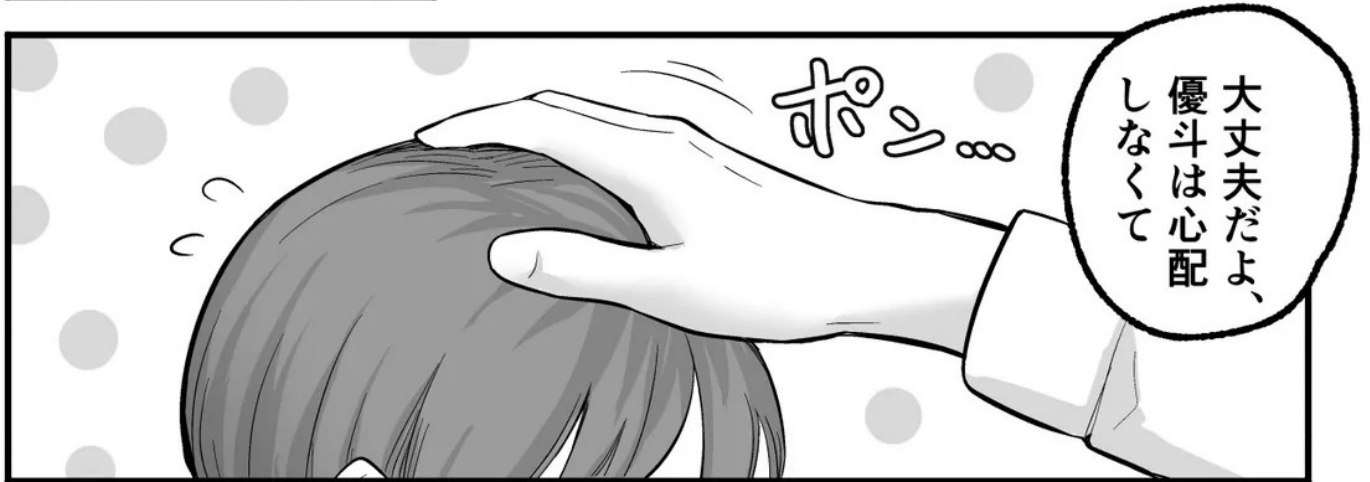
一人だけ  
生き残ったって  
気味が悪い

あの子は  
悪魔の子よ！

親と一緒に死ねば  
よかったのよ！！



待...

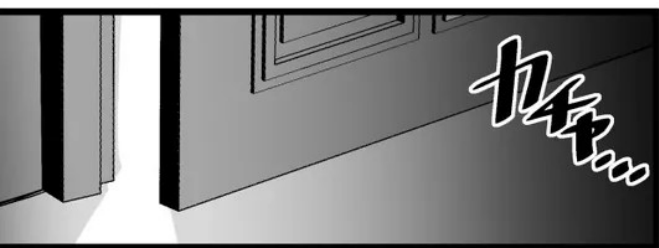




起きてたら  
ちよつと  
話さない？



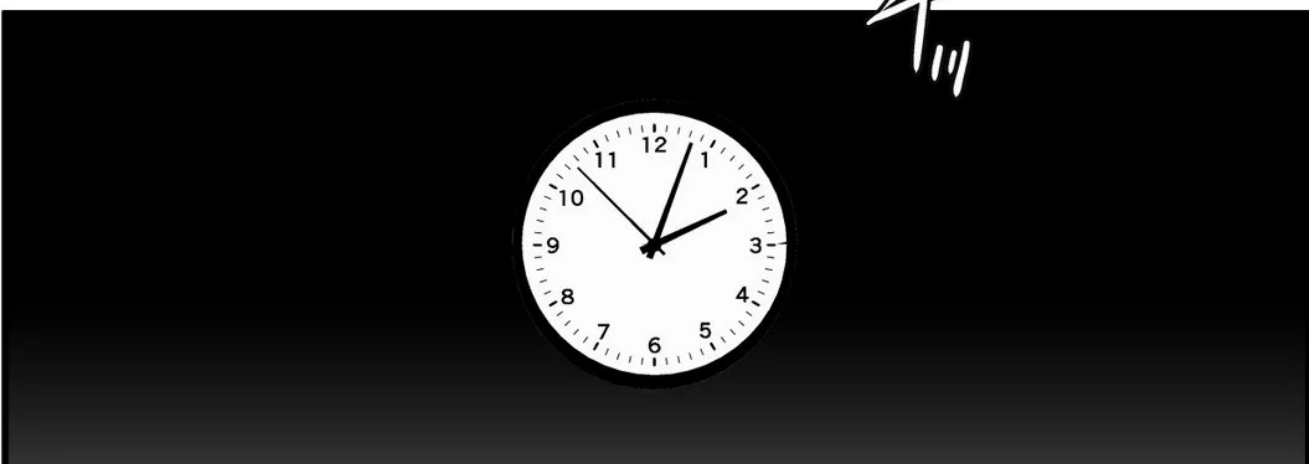
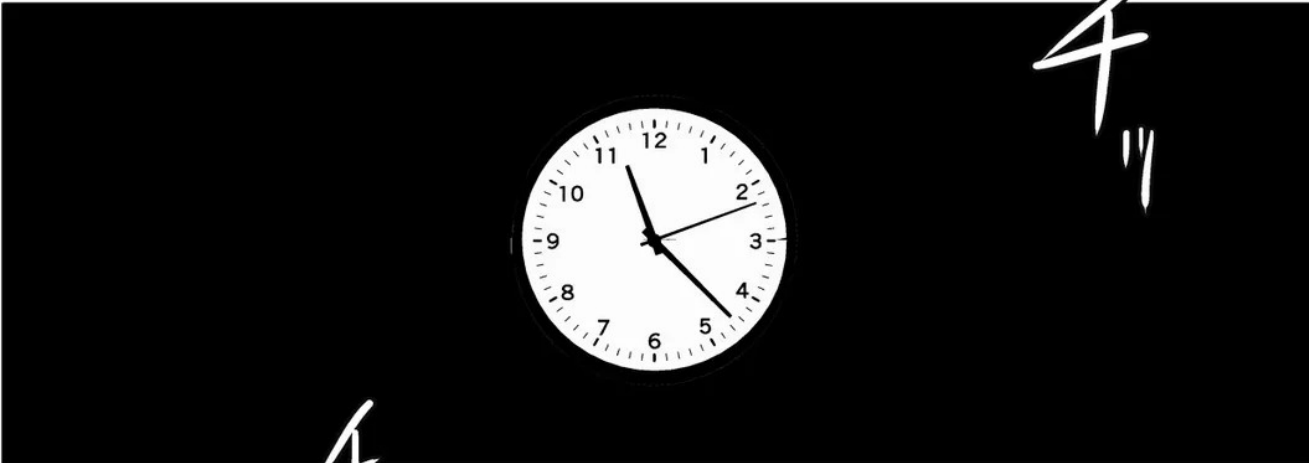
……亜子ちゃん  
ちよつといいかな

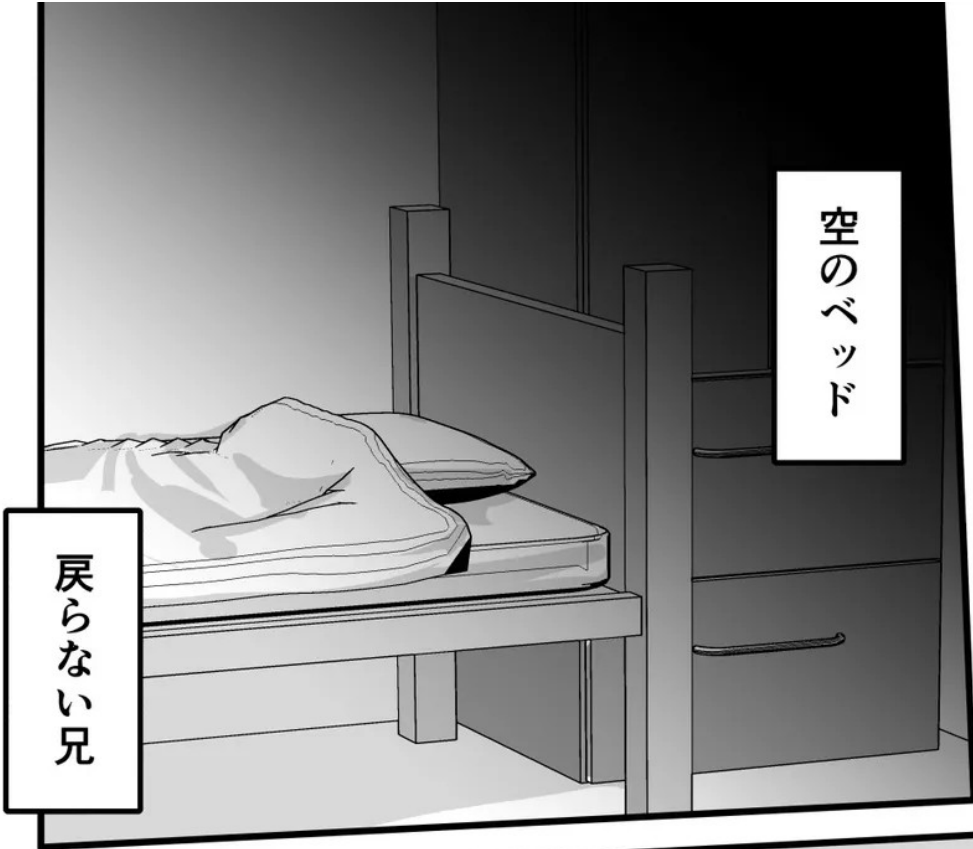


カキーン



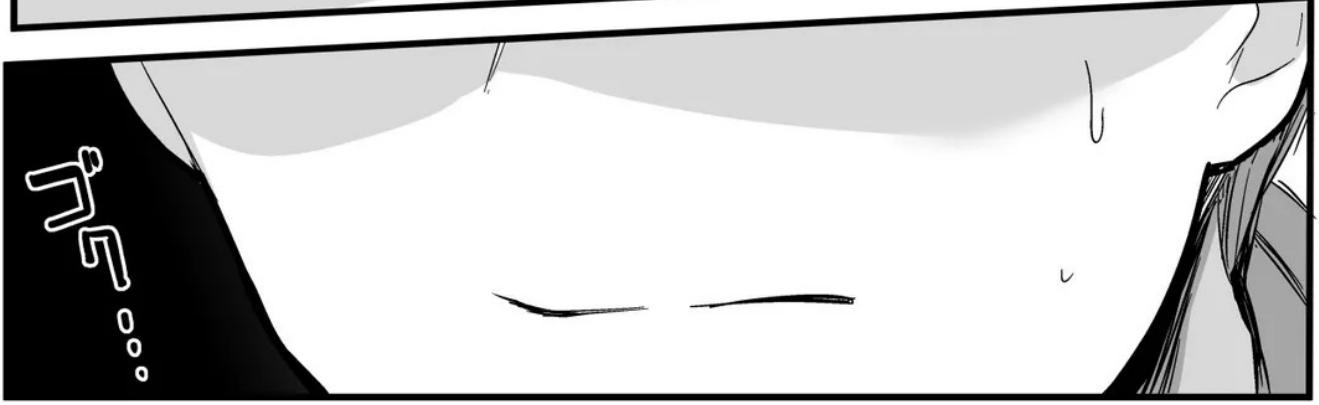
トーン





空のベッド

戻らない兄



ムレ...



胸騒ぎ  
がした

キィ...



はん

はん

はん

はん

んんん

はん

んんん

んんん

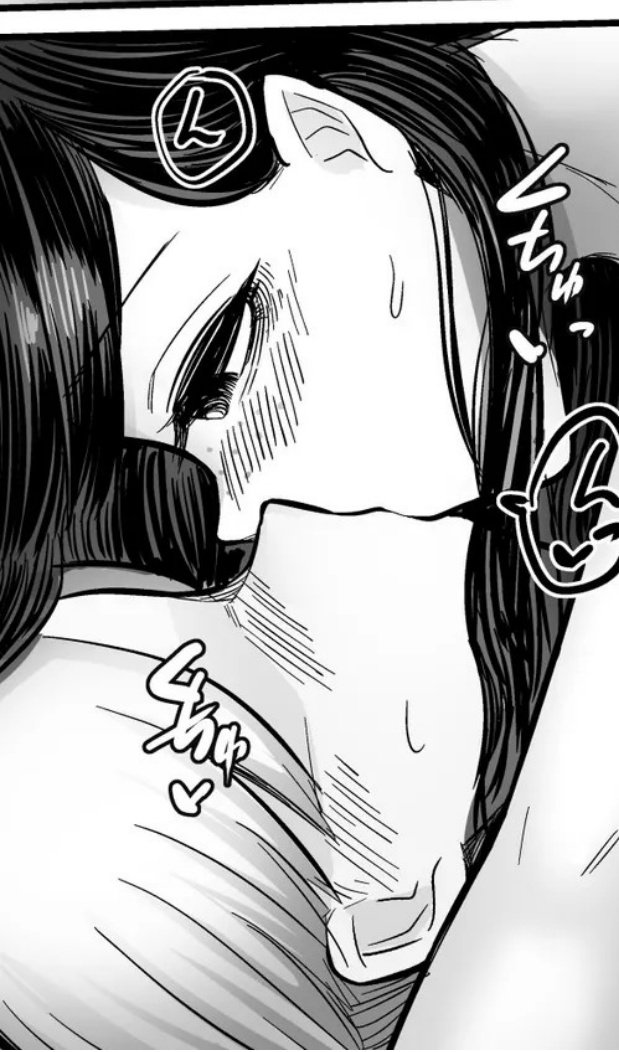
はん

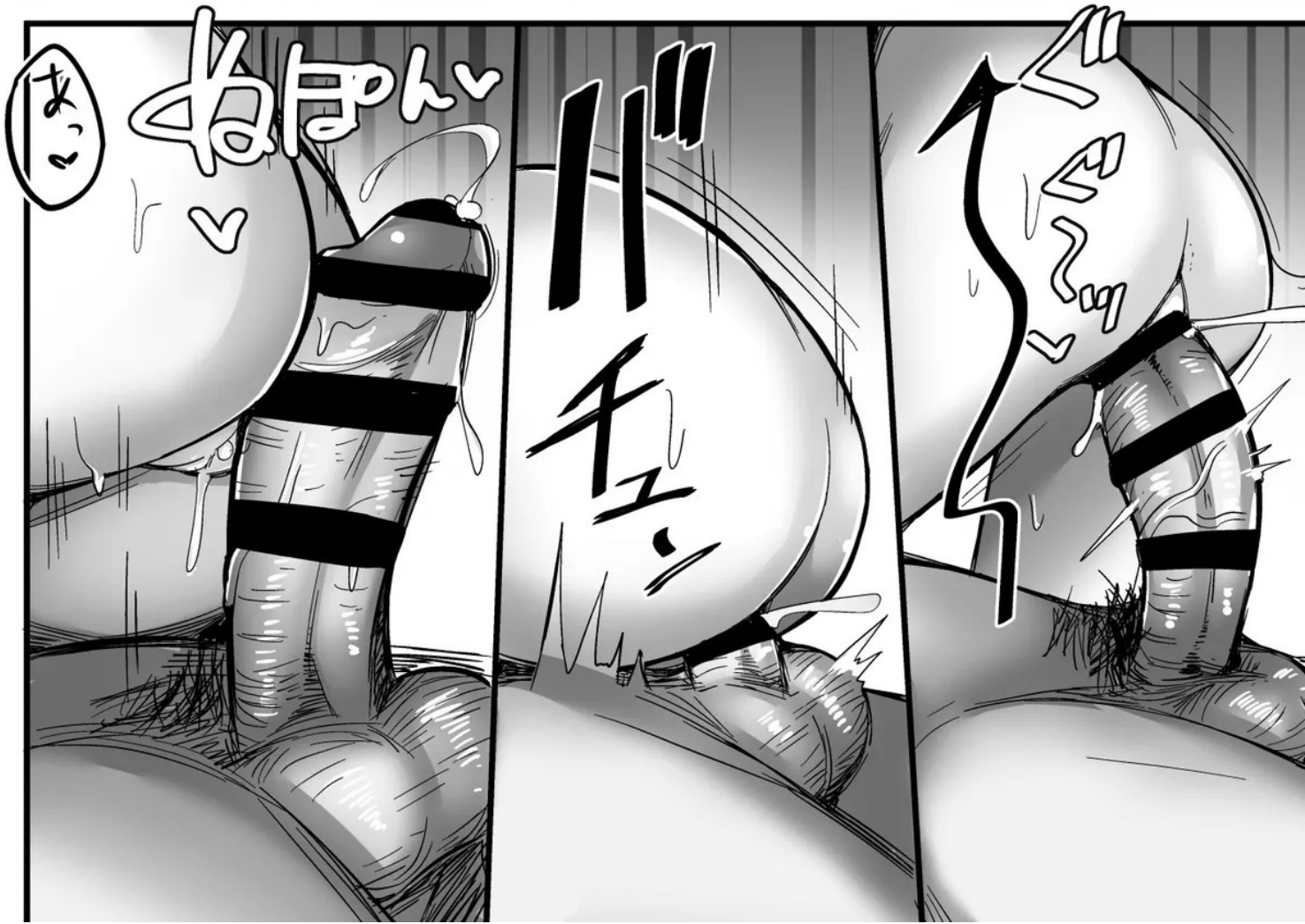
んんん

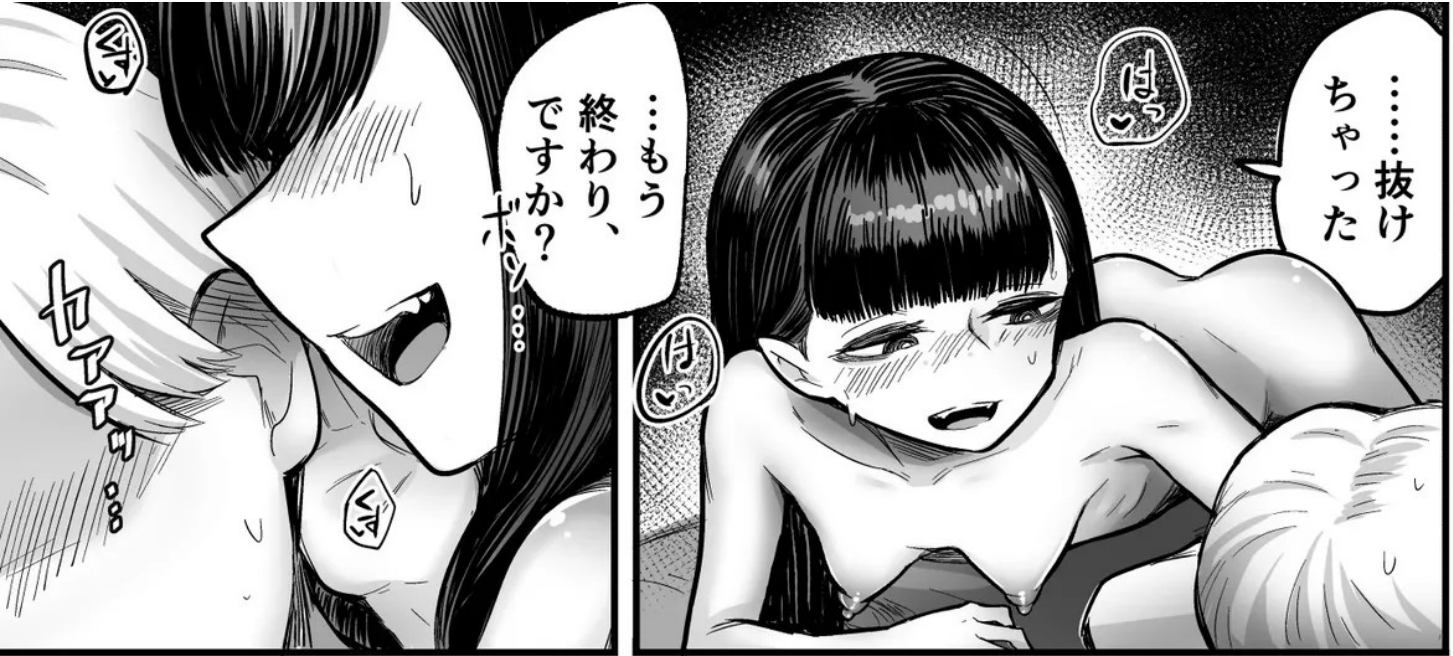
んんん

はん

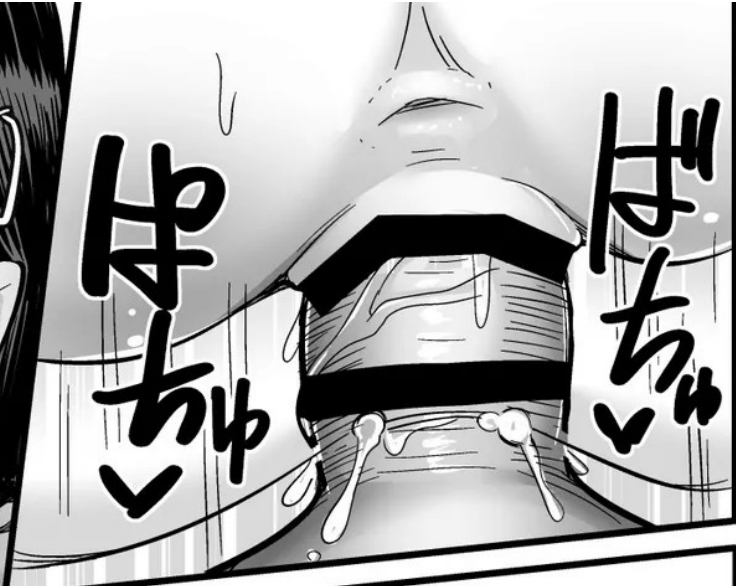
んんん





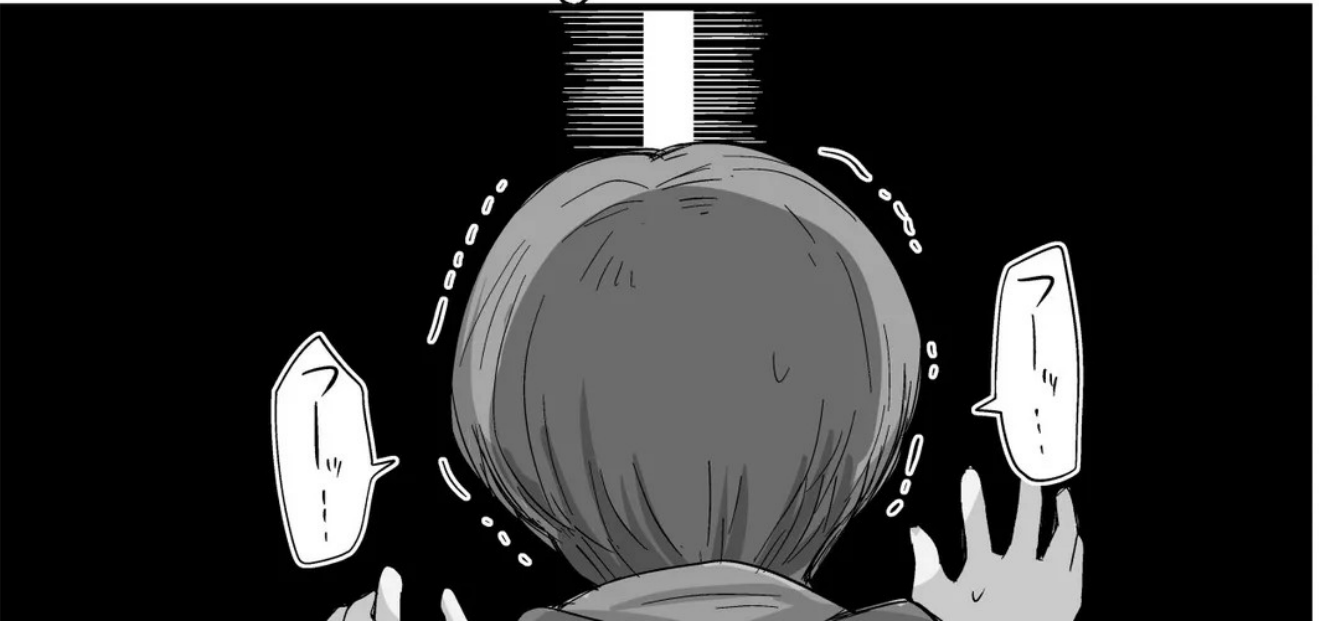
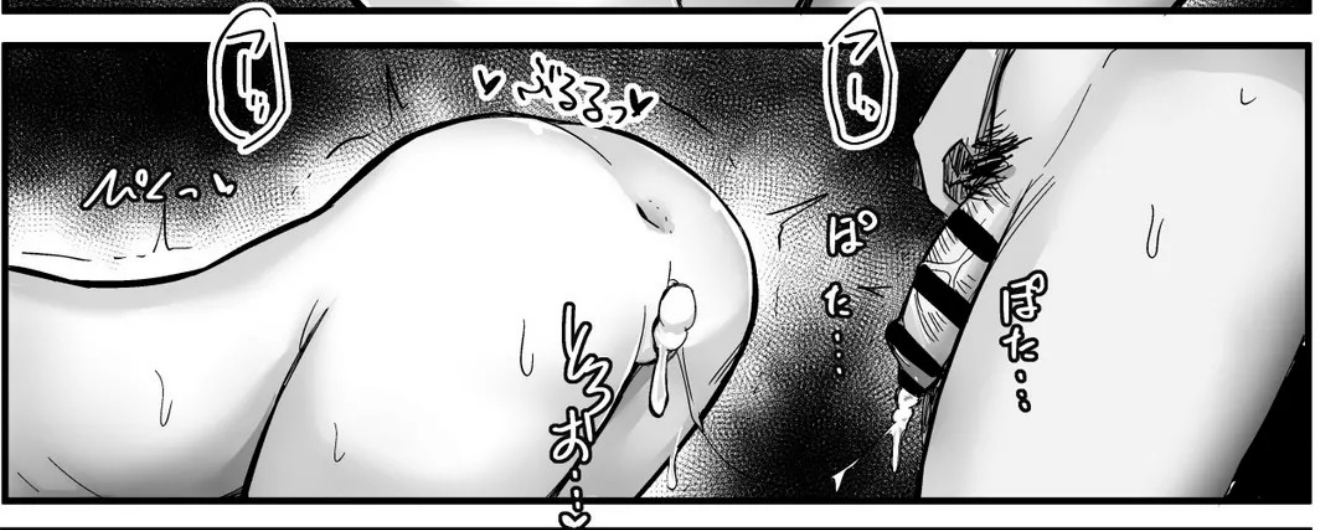
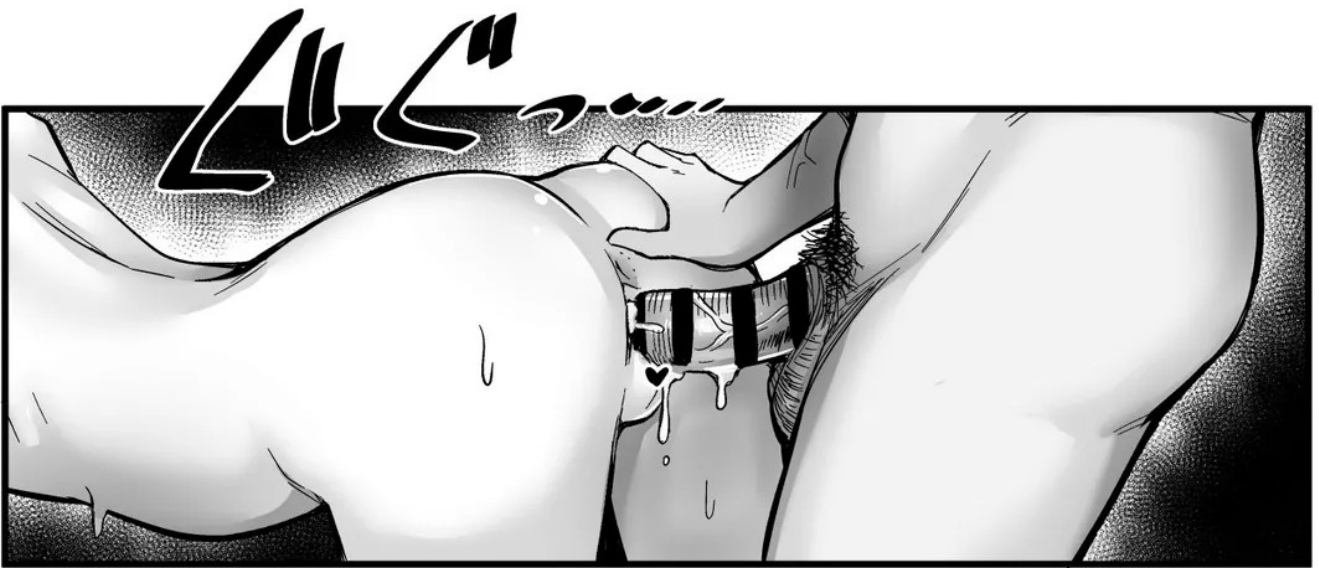


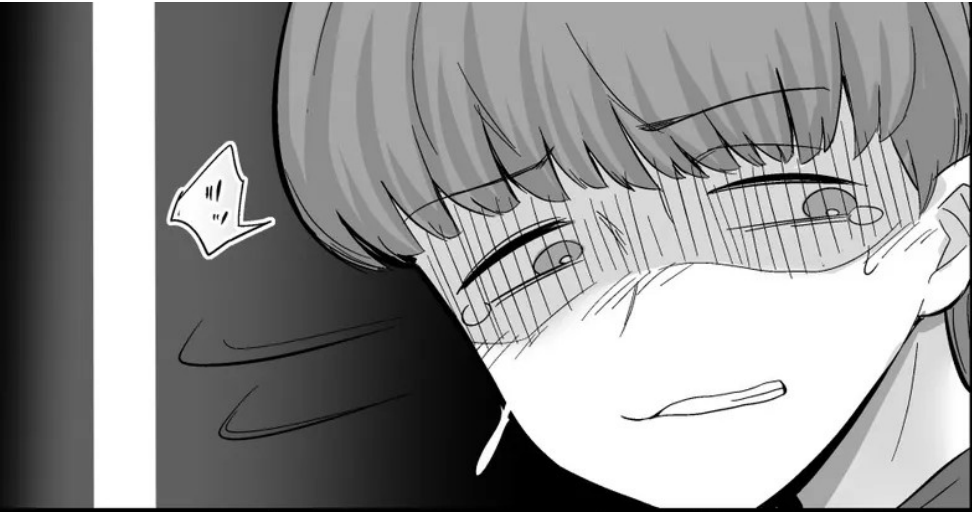






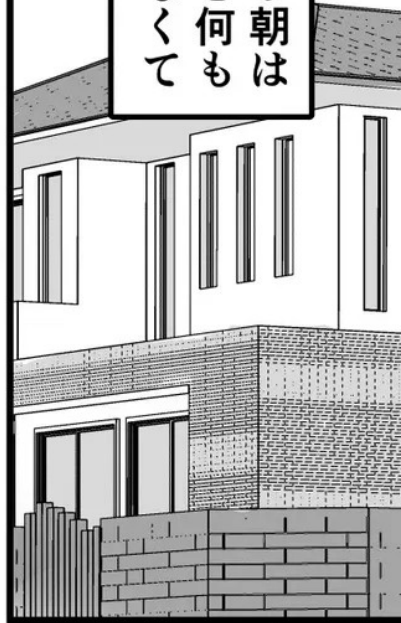






昨日のことが  
すべて  
夢だった  
かのように

その日の朝は  
いつもと何も  
変わらなくて



僕はそう思う  
ことにした

いや、あれはやはり  
夢だったのだと

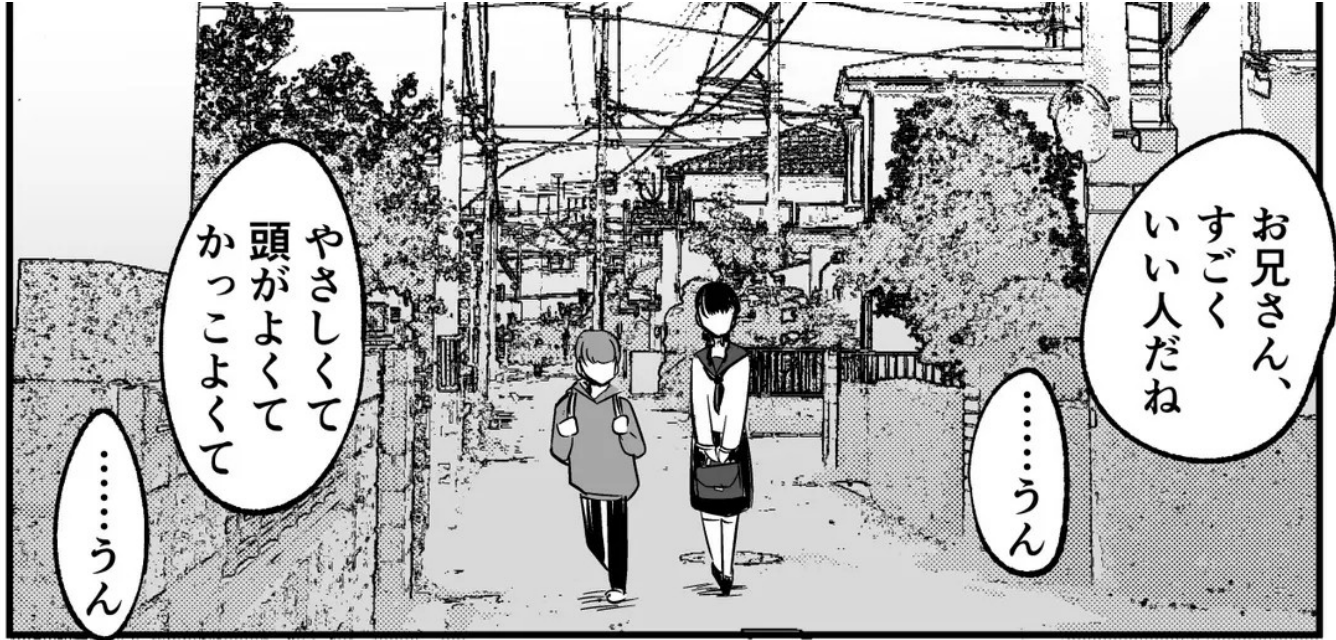


途中まで  
一緒に  
行こう？

なのに――



...ねえ

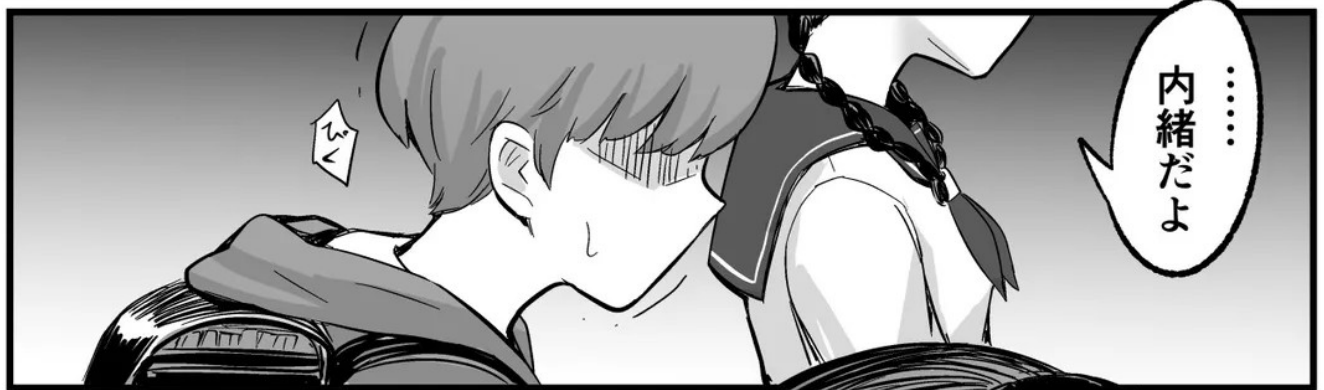


お兄さん、  
すごく  
いい人だね

……うん

やさしくて  
頭がよくて  
かっこよくて

……うん



……  
内緒だよ



ね。



昨日のこと



……

あなたたち  
昨日の夜  
部屋で何  
してたの!!

気づかない  
とでも  
思ったの

何よあの  
汚れた  
シーツは!!

うる  
さいな  
どうでも  
いいだろ

待ちなさい!  
ちゃんと説明  
しなさい!!

あなたが  
こんな子  
もらって  
くるから！

義之まで  
おかしく  
なったのよ

今まで  
口答えなんか  
したこと  
なかったのに

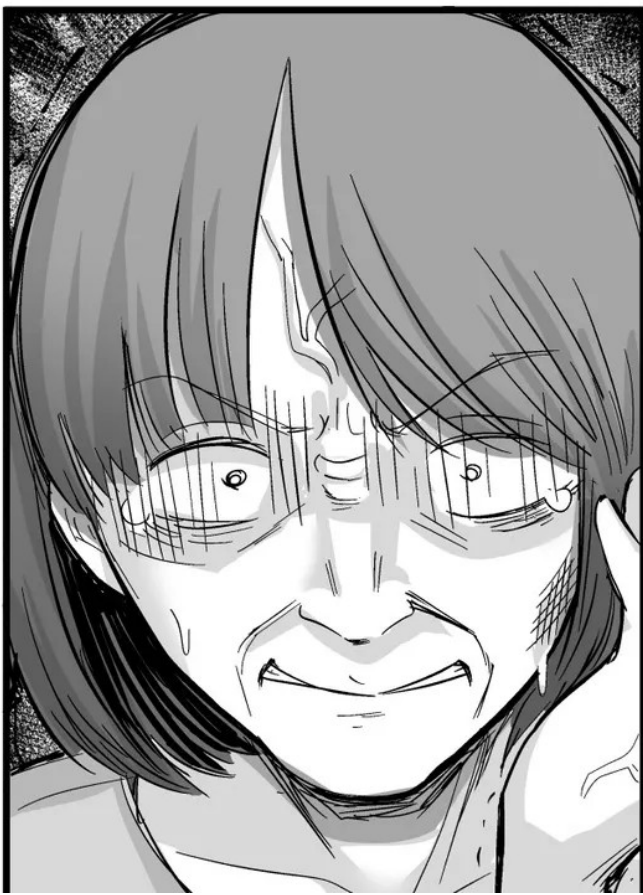
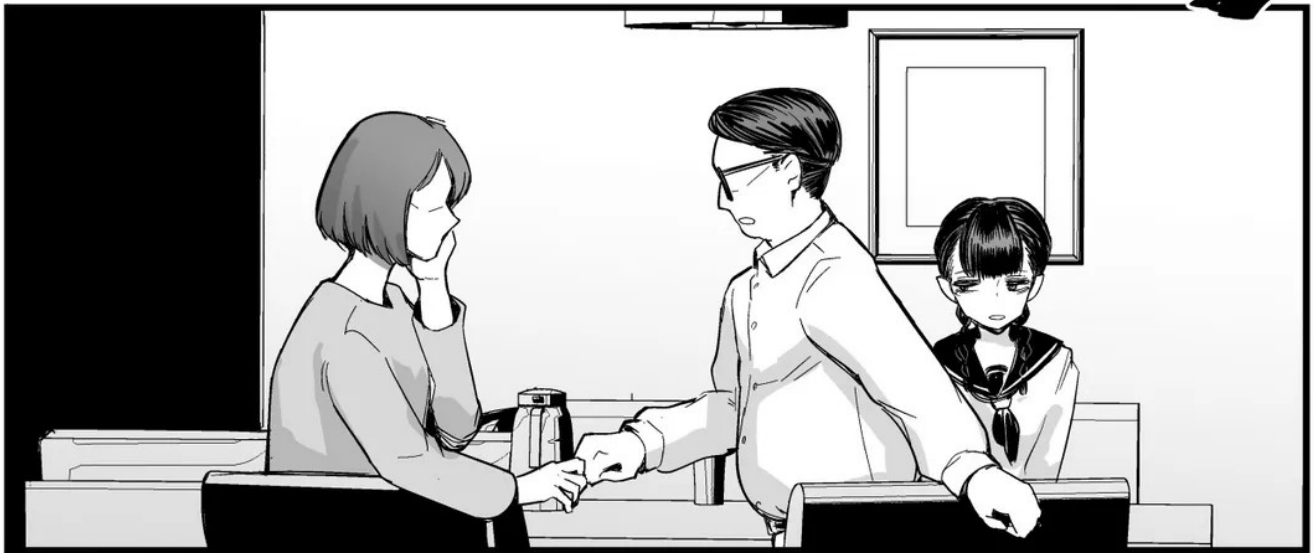
ギ  
ルッ

なんとか  
言ったら  
どうなのよ

ああ  
わかったわ

どうせあなたも  
この子と  
寝てるんでしょ！

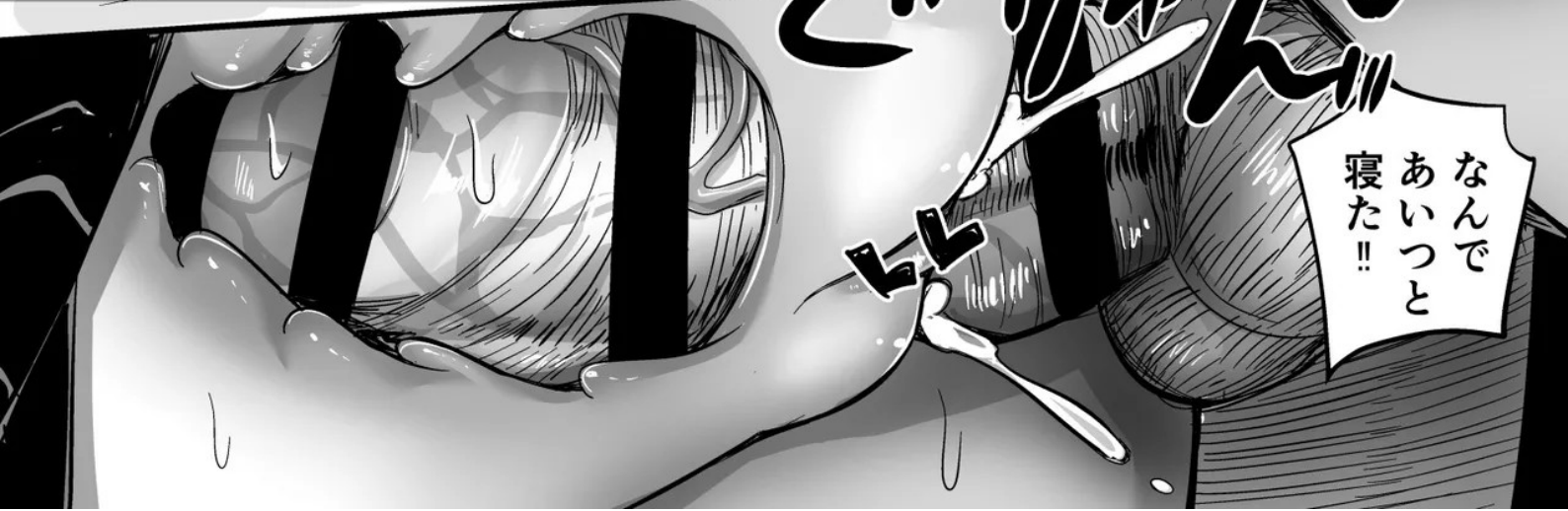
この子の実の  
父親みたいに





母さんは  
それきり帰って  
こなかった







ほがやん

ほがやん

おまえは  
おれのものだ

おれの娘に  
なっただ

ゴッ

ゴッ



オッ

オッ

おれとだけ  
寝るんだ  
わかって  
るのか!!

オッ



言え!!

びくびく

びく



どっちが  
いいんだ!!  
おれと  
あいつと

はち  
はちん





答えろ!

ええ〜?

びん

びん

びん

びん

びん

びん

びん

びん

びん

びん

びん



おっかしい

クス...

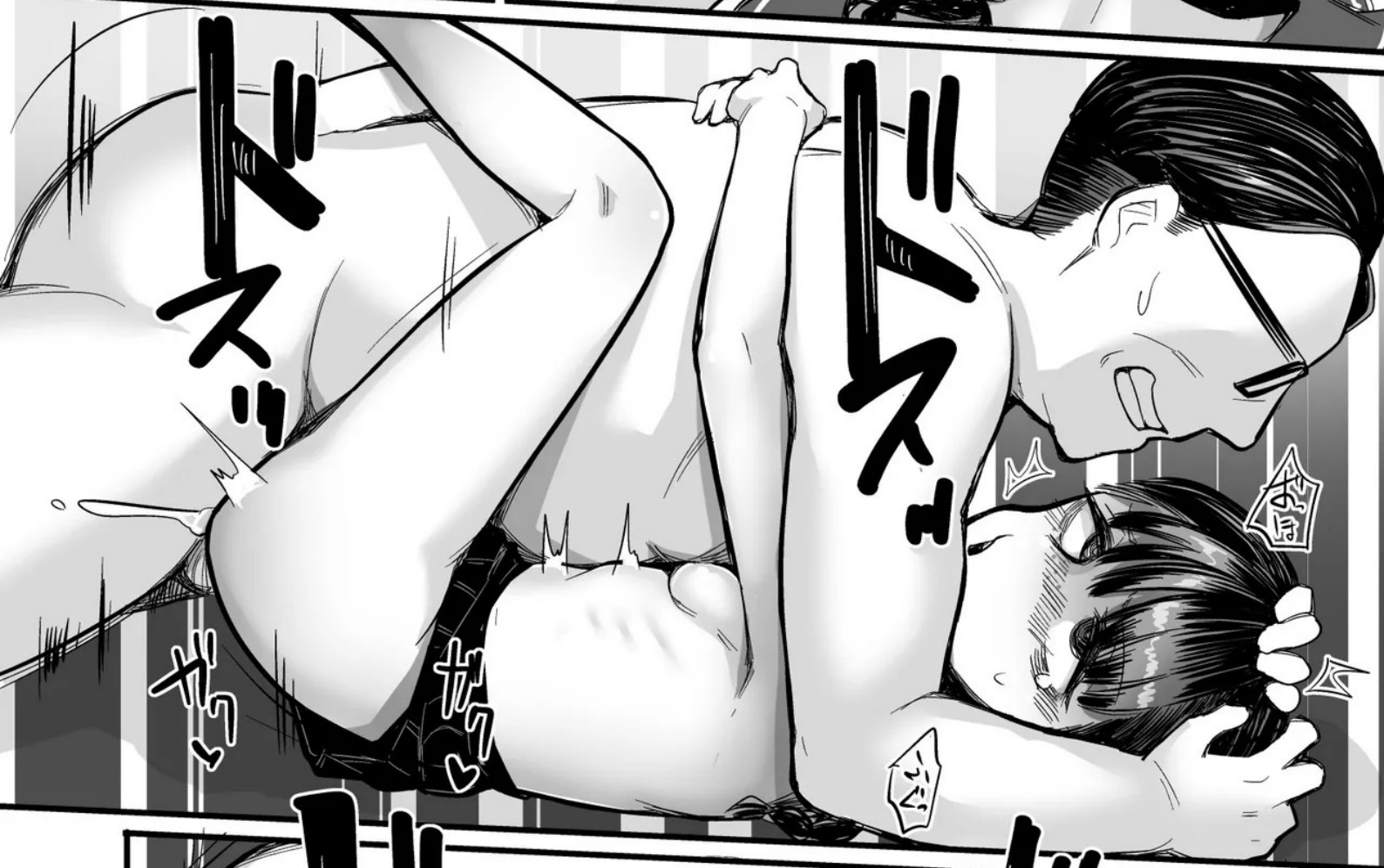
グッ  
ッ...



— 妬いて  
るんですか？

自分の息子に

は...



ド  
ス  
ド

グ  
ッ

グ  
ッ

ド  
ス  
ド

グ  
ッ

グ  
ッ

グ  
ッ



は...

は...

このガキッ

しつけがッ

必要だッ

ド  
ス  
ド

ド  
ス  
ド

グ  
ッ



ゴッゴッ...

おとうさんの  
ほうがちんちん  
おっきいですよ♡

健くんよりも  
前のおとうさん  
よりも

おなかの裏  
ごりごり  
こすられて  
すごい♡

はぁ、  
はぁ、

はぁ、  
はぁ、

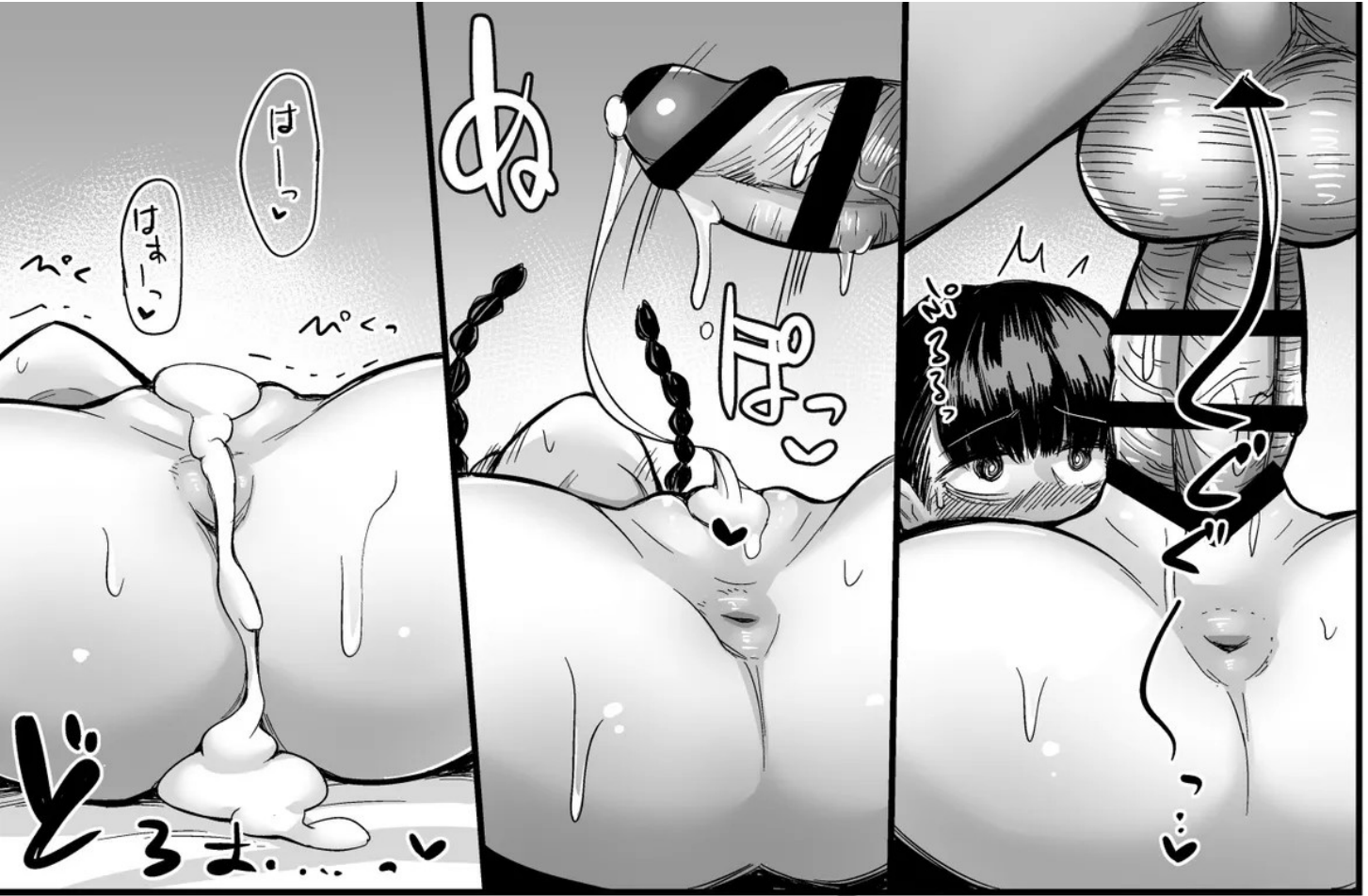
わ、


だ、

はぁ、  
はぁ、

はぁ、  
はぁ、








母さんが  
いなくなつて

僕たちの日常は  
タガが外れて  
狂つていった



父も兄も  
暇さえあれば  
所かまわず





きつとお互い  
気づいて  
いるのに

何も言わず  
知らない  
ふりをして



なのに競うように  
亜子姉を求めて



ずんずん

ずんずん

ずん

ねえ、ゆう君

こっちが  
お父さんの  
つけた跡

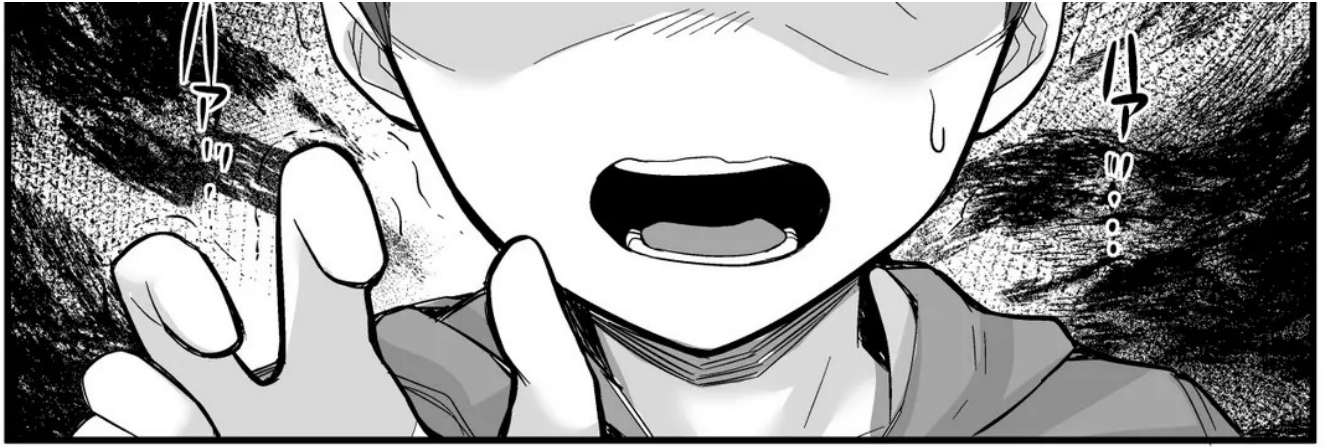
こっちが  
お兄さん

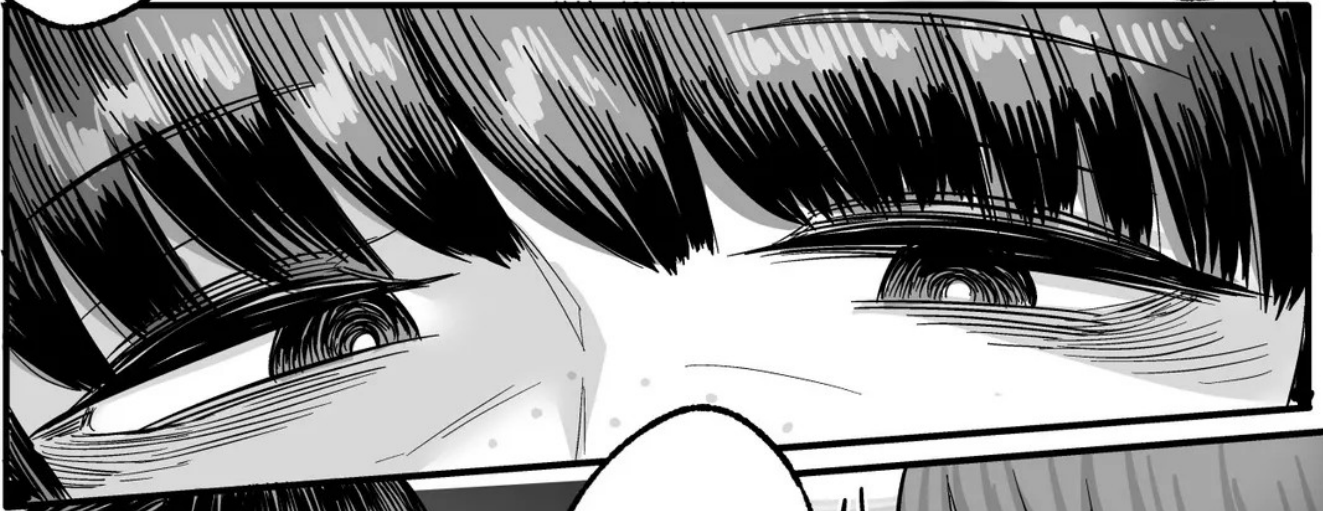
前のお父さんも  
よくこうしてた

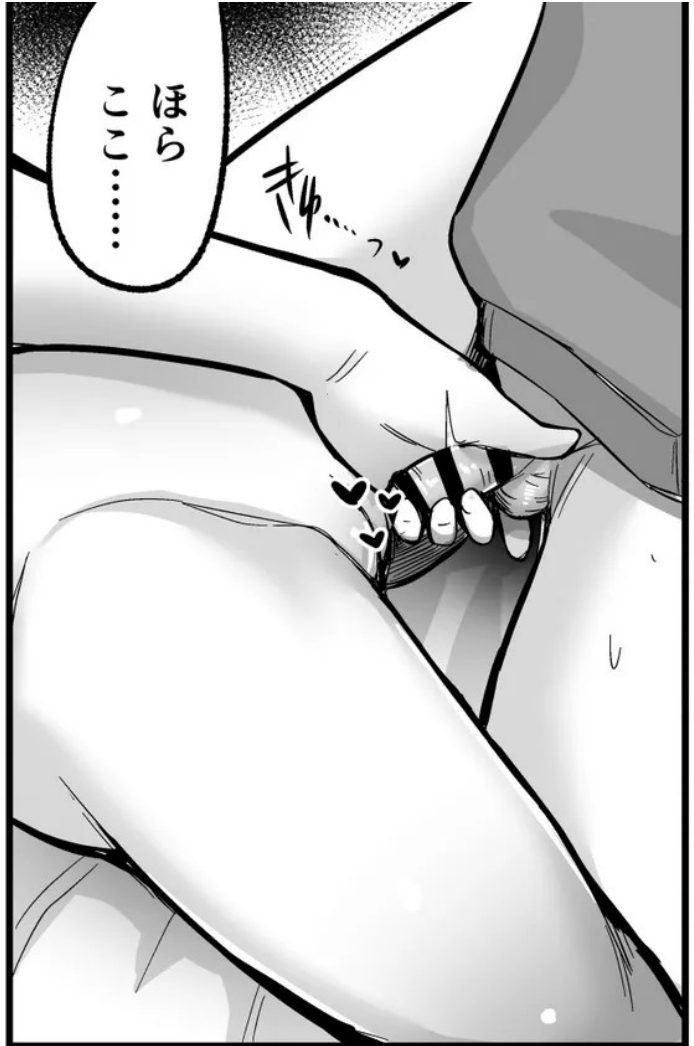
みんな、あたしを  
自分のものに  
したいって言うの

ゆう君も？











これが僕の  
精通だった



この人を  
自分のものに  
したいのに

子どもの僕には  
どうしようも  
できなくて



僕は……  
それでも亜子姉を  
恨むことができなくて

父と兄が  
いなくなつて  
しまえば  
いいのにと  
呪つた



——結果  
からいえば

それは  
かなった

みんな  
わかって  
いたのに  
止められ  
なかつた



必然の  
チープな  
悲劇的結末

亜子姉は  
泣いていた

心の底から  
かなしそうに

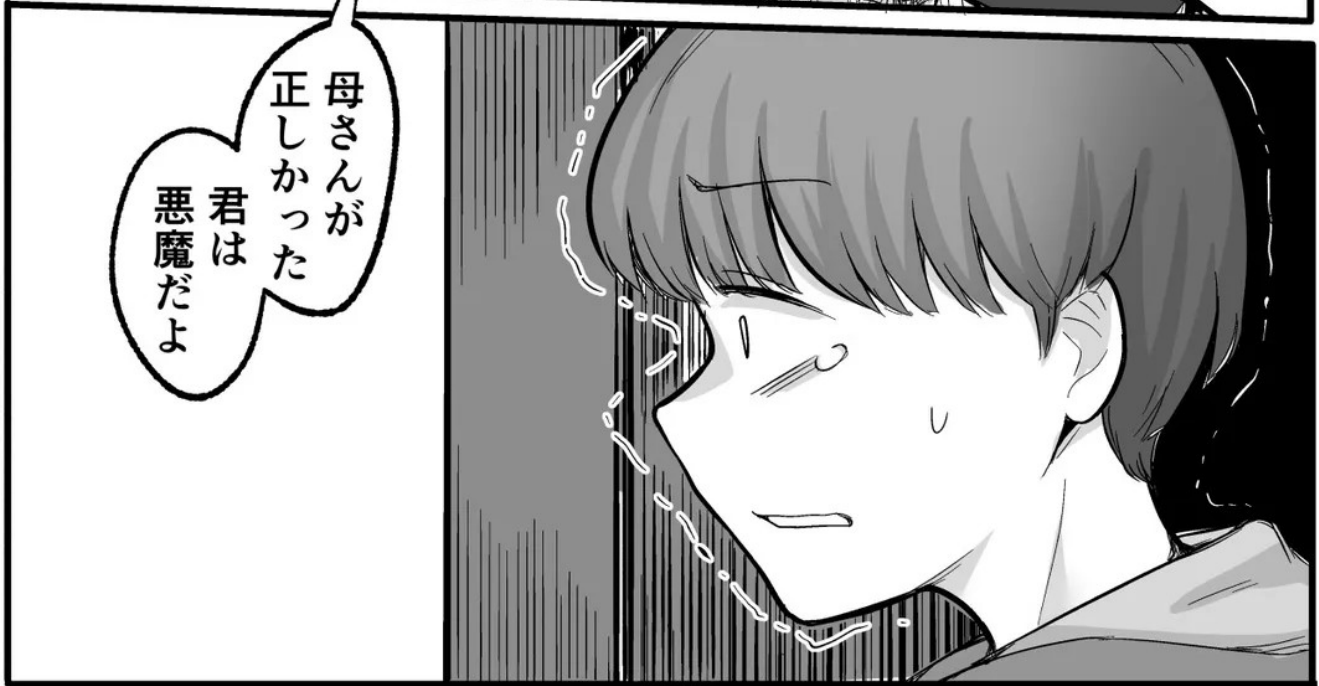
穢れを知らない  
子どものように





自分は何も  
悪くない  
みたいな顔で

— なんでだよ  
なんで  
そんなふうに  
泣けるんだよ



母さんが  
正しかった  
君は  
悪魔だよ



その後一度も  
会っていない

亜子姉は施設に  
引き取られ  
またどこかの  
養子になった  
と聞いた

あれから  
十年が過ぎ  
大人になっても

僕は恋人を  
作れない

もし僕に  
大事な人が  
できて  
しまったら

そのときききつと  
きれいに成長した  
亜子姉が現れる

そしたら僕は  
全部を投げ出して

自ら破滅の道  
を選んでしまう

彼女と  
出会った  
全ての男と  
同じように

そんな  
予感がする

彼女の涙が  
嗟い声が

僕の頭から  
消えて  
くれない



# あとがき

ここまでお読みいただきありがとうございます。

今作のヒロイン「亜子」は、僕が愛してやまないホラー映画に出てくる女の要素を盛り込んで作られました。だってホラーに出てくる女ってエロいじゃんね。

具体的に言うと境遇は「エ○ター」、ビジュアルは「ウェン○デー」、男を惹きつける性質は「富○」、みたいな。怪異じみた魅力を感じていただければ幸いです。

それから、このキャラクターを構成するもう一つの軸は、「本当に悪い女には悪気がない」「自然に、気ままに生きているだけで周囲を不幸にする『宿命の女』こそが本当の悪女だ」という僕の思想です。悪い女が狂わせるんじゃない、男が勝手に狂うんだ。みんな悪い女に狂いてえよなあ！？

最後にこの場を借りてひとつ懺悔しておきますと、今回は本来前作『サイコーサイアクテラスハウス』の完結編を描く予定だったのですが、諸事情(主に僕のモチベ)につき全く関係ない作品を描いてしまいました。楽しみにしてくださった方々には深くお詫び申し上げます。

あの話の結末は、おそらく独立した作品として販売することはないと思いますが、余裕があるときに加筆してデータを更新し、前作を購入いただいた方には無料で読めるようにしようと考えています。

以下、おまけとして次回作の設定と筆慣らしに描いたイラストを載せておきます。また次も読んでね！

2025/2/21 なたソルト

# 児島せら

卑屈で陰キヤな〇学生。  
スポーツできそうな見た目  
だけど全然できない。

おしやれに疎く冒険して  
からかわれるのも嫌で  
無難な恰好をしていたら  
結果的にボーイッシュな  
見た目になってしまった。

クラスの一軍女子から  
見下されていると感じ、  
そのストレスを自慰で  
発散している。

ひよんなことから  
その女子の兄が  
引きこもりのニートで  
あることを知り、  
普段の意趣返しとして  
そいつを誘惑してやる  
ことにした。



垢ぬけてない  
クラスの二軍  
陰キヤ女子でも

ロリコン弱者男性なら  
オモチヤにしていよいよね!



うわあ、  
ガン見してる、  
あたしのナカ

目血走らせて  
鼻息荒くて……

気持ち悪っ

いっ、

ちゅ……

このひと  
「弱者男性」だ

あたしより  
「下」のひとだ

だから  
いいよね？

あたしなんか  
好き勝手に  
弄んでも……♡

んんん

んんん♡

んんん♡

んんん♡

んんん  
んんん  
んんん

んんん  
んんん  
んんん





ちゅーちゅー

ちゅーちゅー

ちゅ  
ちゅ



は

か

は

ん

ん

ん

ん



とんでもない格好で  
チンポ突っ込まれ  
てる女が

一番工口  
なんだよな